



# 第 103 号

2023 年 10 月 1 日



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・高橋 聖大

「医療的ケアが必要な方とその  
家族のための BBQ 食事会」  
に参加しました！

9 月 2 日に江戸川区にある葛西臨海公園で「医療法人財団はるたか会」主催の「医療的ケアが必要な方とその家族のための BBQ 食事会」が開催されました。幸樹会からも、ボランティアスタッフとして 3 名が参加させて頂きました。(次ページで報告)

あんず訪問看護ステーション看護師 村里恵

晴天の葛西臨海公園、芝生の広場にテントがたくさん配置され、前方にBBQコンロがいくつも並び、焼き系のボランティアが炭火を熾しています。クーラーボックスには冷えた飲み物がいっぱい。楽しい雰囲気の中、次々と参加者が集まってきます。気管切開をしているお子さんが、人工鼻を着けて楽しそうに



会場内を歩いています。電動車椅子を巧みに操作して自由に動き回っている方もいます。家族と一緒にテントの下、リクライニング車椅子でくつろいだ表情の方がいます。家族の皆さんもいつも診ている医師や看護師と一緒にいるので安心している様子です。前田医師の挨拶で「体調に心配があればすぐに医療スタッフに声をかけてください」とお話がありました。はるかたかの医師・看護師等医療スタッフはピンクのTシャツ。他ボランティアは水色のTシャツ。役割分担が明確で、声をかけやすい配慮がされていました。ホテルの会議室を休憩やおむつ替えスペースとして開放していて、涼んだり休んだりすることもできます。スタッフをふくめ、総勢 1200 人ほどが集まり、大盛況でした。私は、配膳係で、食事や飲み物を配りながら、交流させていただきました。普段あらず訪問看護で伺っているお子さんも家族で来ていて、外で会えるとまた、新鮮で嬉しいものです。BBQの炭火の匂い・美味しそうに肉が焼ける匂い、はしゃぐ兄弟児の声、吹き抜ける潮風、木漏れ日の下でつけた青いどんぐり。レクリエーションも用意されていて手形・足形をうちわに押ししたり、園内を走るパークトレインを貸切りで乗れたり・・・どれもこれも宝物のような思い出になったことでしょう。炭火焼のお肉等は、ミキサー食にも対応していて、好みの硬さなどを聞いて、係の方に伝えて作って頂きました。色々なところで、こういう対応が出来る、医療的ケアの必要な子供だけでなく、高齢者や、嚥下機能の低下している方にも優しい社会になるなと思いました。このような活動に参加することで、お家への訪問では見えない部分が見えて、色々な気づきがありました。こうした活動が、インクルーシブな社会の実現の一歩になるなと思いました。ス

タッフ・ボランティアの方も、色々な方が参加されていて、皆さまの熱意に感動しました。訪問看護ステーションの方、胃瘻チューブのメーカーの方、支援学校の方、学生さん、医療的ケア児の旅行を支援するボランティア活動をしているグループ等、全国から集まった皆さんとの交流も楽しかったです。終了後は、隣接の葛西臨海水族園に行く方、大きな観覧車に乗る！と決めている家族もおられました。参加者みんなが自然を満喫し、楽しんだ一日でした。



前田先生挨拶（赤いTシャツ）

## 学会で発表しました

2023年9月9・10日 大宮ソニックシティにて行われた日本在宅医療連合学会 第5回地域フォーラムに参加し発表しました。

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう  
所長 南雲朋子



左から 川越先生・岡本・南雲・宮田・星野先生

今回の学会テーマは、「再考 地域ケアシステム～コロナ禍で変わったこと、変わらないこと～」私が発表したセッションは、星野クリニック（松戸市小金原）の星野先生が座長。総評はあおぞら診療所の川越正平先生です。題して、地域密着型サービスを利用し在宅限界点を高める ～2040年問題を見据えて～ です。看多機さんしょうが、『都市部における看多機の活動報告』と題して、在宅の限界点を引き上げた事例の発表をさせていただきました。

コロナ禍で変化した在宅医療の在り方として回復期・緩和ケアが病棟から在宅へシフトし、在宅の需要が急増した事で看多機の強み、良さがさらに明確になったと感じています。

今後も支え合える地域づくり、自分の居場所を自分で選べる、病気に負けない強い地域を作っていきたいと考えています。

同じセッションの中で、『地方における看多機の活動報告～地域共生社会を視野に～』は、栃木県那須烏山市にある看多機の発表でした。人口2万人で高齢化率が約40%という状況下での看多機を立ち上げからの活動報告は、胸が熱くなる感動の発表でした。地域によって看多機に求められることに多少の差はありますが、利用者や家族が家に居られて良かった。住み慣れた家、地域で過ごせることを支援することに変わりはありません。

その他にも、『定期巡回で在宅限界点を高める定期巡回』と『サービス付き高齢者向け住宅など他事業と展開する定期巡回』の発表があり、在宅限界点を高め、今後の可能性を感じられる内容でした。総括であおぞら診療所の川越先生は、地域密着型サービスを正しく理解してもらい都合よく使われるのではなく、それぞれの役割を最大限に生かせるように連携していける地域を目指していきましょと仰っていました。

学会に参加し、発表をすることで地域密着型サービスの重要性や課題を理解することが出来ました。

## 共同事例検討会開催しました。

令和5年8月31日 松戸愛光園ケアプランセンターの皆さんと共同事例検討会を開催しました。

あんず居宅介護支援事業所 田中和世

今回の共同事例検討会では「意思決定支援」がテーマです。ALSの病気の進行に伴い療養生活の場を変えたケースを、その方にとって一番良い方法とは何か？伝える事が難しくなった方の意思のくみ取り方についての検討をしました。コロナ渦の状態となつてからは、ZOOMでの開催となつていましたが、共同事例検討会でケアマネ同士、顔を合わせて開催する事は4年振りとなり、参加者8名、直接皆さんとの意見交換が出来、やはり共同で顔を合わせての共同事例検討会は良いものだと感じました。共同で事例検討を行う事により各居宅の色や地域性が見えてきます。

私達ケアマネは、他の居宅のケアマネに研修などでお会いする事はありますが、日頃ケアマネ同士が交流するという所までにはなかなか至りません。共同

事例検討会を始めてからは、居宅を通して他のケアマネとの交流が増えています。

これからもお互いの居宅での地域情報交換や共有など行いながら、居宅交流も含め共同事例検討会を行い、地域の皆さんが住みやすい、ここに住み続けたいと思う地域が作れる様、地域の居宅と協働していきたいと思っています。

## 看多機さんしょう見学の感想

あおぞら診療所(研修中)石塚 啓祐

あおぞら診療所で研修をさせていただいております、石塚啓祐と申します。本日は“さんしょう”にて1日見学をさせていただき、ありがとうございました。恥ずかしながら今まで触れる機会もありませんでしたので、看護小規模多機能型居宅介護というものが如何なるものかもよくわかっておりませんでした。皆様に丁寧に機能をご説明いただき、なるほど利用にはとても融通が効きそうで、良さそうな場所だと感じました。私は普段は緩和ケア病棟に勤務しておりますが、訪問診療先の選定までは関わることがあっても、訪問看護側まではほぼMSWに任せきりでした。貴院のようなサポートがありましたら、より自宅に帰るハードルを下げられる方もおられるのではないかと思います。院内のMSW方ともお話してみつつ、今後活かしていきたいです。また、実際に訪問看護やリハビリにも同席させていただきました。なかなか実際を見る機会のないものであり、今回の研修を通じてより理解を深めることができたと思います。1日という短い期間ではありましたが、大変貴重な経験をさせていただいたと考えております。この度は誠にありがとうございました。

## 福祉用具専門相談員 の こころ

介護ショップからたち

福祉用具専門相談員・所長 武井友恵

福祉用具を使うというと、出来なくなったことが強調されたように感じられ、嫌だと思われる方も多いと思います。でも、さまざまな種類があり、おしゃれな見た目の物も多くありますし、福祉用具を使用することによって実際にできることが増えると、気持ち前向きになって生活に楽しみが出るようになると思います。福祉用具の利用に抵抗のあった方に、「使ってみたらとても役立つ」と笑顔で言われる時はうれしく感じます。とても多くの種類があり私自身も知らない福祉用具がたくさんあって、その便利さを知ると驚きます。勉強して、様々なケースに提

案できるようになりたいです。レンタルは、介護保険により 1~3 割負担で利用でき、ほとんどがお試し可能で合わなければキャンセルや違うものを試したりできます。ベッドやマットレスは身体状況や生活に合わせて選定し、状況が変われば変更できますので、レンタルをご利用いただくと便利と感じただけだと思います。杖、手すり、車いすなども様々なタイプをご紹介します。からたち薬局に併設して相談コーナーを設けており、カタログも置いてありますので、お気軽に介護ショップからたちまでお声掛けください。



## デンマーク便り...51

ラスムッセン 京子

首相メッテ・フレデリクセンは、政府がどの4つの専門職グループに対し、より多くの報酬を支払うかを明らかにした。首相は、看護師、ソーシャルワーカー、教育者（ここでいう教育者は24時間対応する施設で働く教育者です、例えば麻薬中毒患者等の社会復帰を目指す閉鎖された施設で教育者として生活を共にする職員です）、刑務官を福祉社会に「不可欠」な存在として挙げている。昨年10月末、選挙の数日前に、首相は老人ホームを訪問し、社民党は公務員の待遇改善を保証する用意があると有権者に語った。これには、賃上げのために30億デンマーク・クローネを提供するという約束も含まれていた。彼女の後ろに掲げられた横断幕には、1人ではなく2人の社会保健アシスタントが描かれていた。しかし当時、メッテ・フレデリクセンは、どの職種が賃上げを期待できるのかについては明言しなかった。TV2のインタビューで、首相は今、政府が賃上げの対象として考えている職業を明らかにした。私たちは、職員を惹きつけ、維持することが難しくなっている分野に注目しています。首相は、「社会福祉士や医療補助者、看護師、教育者、刑務所や保護観察所などです」と言う。首相は、賃上げが段階的に実施された場合、20万人の職員の平均で税引き前、月額2,500kr（約5万円）の賃上げがあると想像している。福祉社会にとって不可欠今年6月、賃金構造委員会は報告書を発表した。その中で、看護師は低賃金である職業集団には含まれないと結論づけた。それどころか、看護師は一般的に、教育水準などを考慮すると、本来あるべき水準よりもやや高めの収入を得ているという。一方、最も賃上げが必要な職業としては、教育補助者が上位に挙げられている。我々は、これらの専門職グループの全員が全く同じ賃上げを受けるべきだと主張しているわけではない。首相は、看護師、ソーシャルワーカー、教育者、刑務官を選んだ理由について、彼らは

「福祉社会が機能するか否かに不可欠な存在」だと説明する。これらの職員グループは「人を扱う」のだと彼女は説明する。そして彼らは、私たちが寝ている間にも働いているのです。- 福祉社会の特徴は、私たちが昼夜を問わず必要としていることです。私たちが必要としていることのひとつは、より多くの人々が変則的なシフトに参加することです。今日、夕方から夜にかけて働く人がたくさんいます。それは負担になる。この部分をもっと多くの人と分担できれば、職員にも市民にもメリットがあるはず。あなた自身が設置した給与体系委員会によれば、看護師が最も必要とされていないにもかかわらず、一体なぜ看護師がその一員なのですか？看護師としての仕事には違いがあります。私たちは、これらの専門職グループの全員がまったく同じ賃上げをすべきだと主張しているわけではありません」と首相は言い、こう付け加えた：政府からの提案は、専門職グループや専門職だけでなく、福祉社会が苦境に立たされているところや、社会として特別に感謝しなければならない職務があるところにも目を向けるということです。ニコライ・ヴァンメン財務相は、三者交渉を開始する社会相手との水曜日の会合を前に、他の職業グループも賃上げの恩恵を受ける可能性があることを確認した。財務大臣によると、4つのグループの事前選定は他の職業グループを除外するものではない。我々は事前に4つのグループを特定した。他のグループを含めることができないとは言っていますが、これが出発点です」とニコライ・ワメンは言う。4つのグループが特定されたつまり、看護師、教育者、刑務官、ソーシャルワーカーなど、すでに適用が通告されている職業グループよりも多くの職業グループが登場することを政府は準備しているのだ。同時に、看護師、教育者、刑務官、ソーシャルワーカーとして働いている人は、早々に喜んではいけないことも明らかだ。同じ専門職グループ内の全員が同じ賃上げを期待できるモデルは存在しないのだろう。

9月の学習会は14名の参加でした。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

10月20日（金）18:00～、あつまーれ幸樹

テーマ：「看護小規模多機能型居宅介護の役割」

学会発表を通して感じたこと」

報告：南雲朋子

《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

1397KWh

幸樹会館電力使用量 6048KWh 自給率 23.09%



職員募集！非営利・働きがいある職場

看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり  
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550